

# 原子炉実験所だより

## 目次

1. 平成5年度共同利用研究の公募について .....	1
2. 平成5年度ワークショップ、専門研究会の公募について .....	1
3. 平成5年度臨界集合体実験装置 共同利用研究の公募について .....	1
4. 将来計画短期研究会の開催について .....	1
5. 原子炉利用研究者グループ総会の開催について .....	2
6. 林 竹男原子炉実験所元所長逝去される .....	3
7. 放射性同位元素の所内持込手続きについて .....	5
8. 平成5年度原子炉実験所一般（施設）公開について .....	6
9. 実験装置・設備ニュース －KUR垂直磁場中性子スピネコー装置－ .....	7
10. 共同利用者の声 .....	8
11. 外国人研究員の受入について .....	9
12. 外国人研究者講演会報告 .....	10
13. 教官公募について .....	10
14. 審議員の異動 .....	11
15. 運営委員名簿 .....	12
16. 臨界集合体実験装置共同利用委員名簿 .....	13
17. 職員の異動 .....	13
18. 委員会メモ（平成4年8月～4年10月） .....	14
19. 原子炉実験所だより委員名簿 .....	15
編集後記 .....	16

## 1. 平成5年度共同利用研究の公募について

平成5年度の共同利用研究の公募につきましては、既に公募の通知文書を各研究機関に送付しております。締切日は平成4年12月4日（金）（必着）となっておりますので十分ご留意願います。

なお、不明の点や申請用紙のご請求は共同利用掛（TEL. 0724-52-0901 内線2151, 2152）までご連絡願います。

おって、平成5年10月～平成6年3月の下半期だけの公募通知は改めて行いませんのでご注意下さい。

〔下半期だけの申請の締切日は平成5年6月11日（金）（必着）となっております。〕

## 2. 平成5年度ワークショップ、専門研究会の公募について

平成5年度のワークショップ、専門研究会の公募につきましては、来年1月下旬頃各研究機関に公募通知をお送りする予定ですので、ご留意下さい。

## 3. 平成5年度臨界集合体実験装置 共同利用研究の公募について

平成5年度臨界集合体実験装置共同利用研究の公募を平成5年1月22日（金）を締切日として行っています。公募書類のご請求やご照会は共同利用掛まで。

## 4. 将来計画短期研究会の開催について

当実験所の将来計画に関する研究会を下記により開催しますので、ご参加くださるようご案内いたします。

記

- 日時：平成5年2月10日(水) 午前10時～午後3時  
場所：京都大学原子炉実験所 事務棟会議室  
趣旨：実験所の将来計画に関する討論  
申込方法等：1) はがき、または電話により申込むこと。  
2) 申込先 〒590-04 大阪府泉南郡熊取町野田  
京都大学原子炉実験所  
☎ 0724-52-0901 (内) 2151～2  
3) 申込期限 平成5年1月25日(月) 必着のこと。  
4) 記載事項(次のとおり)

将来計画短期研究会参加申込書

1. 氏名
2. 所属・職名・級号棒
3. 宿泊および食事の希望(あれば○、なければ×)

	2月9日(火)	2月10日(水)
昼食		
宿泊		

## 5. 原子炉利用研究者グループ総会の開催について

下記のとおり原子炉利用研究者グループ総会を開催いたしますので、ご参集下さるようお願いいたします。

記

- 日時：平成5年2月10日(水) 12時15分～13時  
場所：京都大学原子炉実験所 事務棟会議室  
議題：(1) 平成4年事業報告  
(2) 平成4年会計報告  
(3) 平成5年の活動方針について  
(4) 平成5年の予算について  
(5) その他

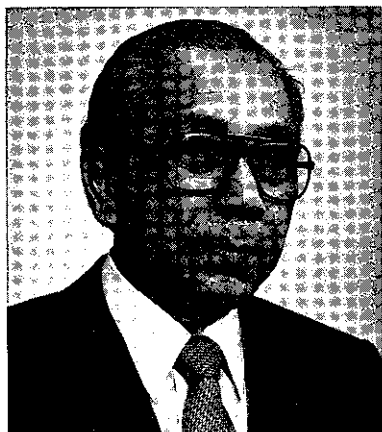
なお、昼食準備の都合上、ご出席の方は将来計画短期研究会への参加申込時に、昼食の要否をお知らせ下さい。

会員各位からの要望については、あらかじめ事務局あて文書でお知らせ下されば、前日

開催予定の幹事会で検討し、実現の見込みのあるものについては総会に諮りたいと思います。

もちろん、総会の席上でご提案下さっても結構です。

## 6. 林 竹男原子炉実験所元所長逝去される



当実験所元所長林 竹男名誉教授には、病氣療養中のところ、9月18日午後2時22分逝去されました。享年73才。実験所の発展に人尽されました先生のご冥福を心よりお祈りするものであります。

なお、告別式は9月20日しめやかに執り行われましたが、本誌では亡き先生を偲び西原英晃所長、岡野事行教授の追悼の辞を掲載させていただきます。

謹んで林 竹男先生の御霊に申し上げます。

先生は、昭和三十九年、原子炉実験所が開設され、一号炉KURが定格運転を開始した直後に、原子炉実験所に計測装置研究部門担当の教授として赴任されました。先生は、原子核物理学と放射線計測学の深い御造詣の下

に、発足後程ない原子炉実験所において、御自身の御研究、共同利用設備の開発と共同利用研究者への御指導をはじめ、理学研究科大学院生への御指導等を通じ、幾多の俊英を育てあげられるなど、多大の御業績をお残しになりました。

私が先生から原子炉実験所で御指導いただくようになりましたのは、昭和五十四年以降のことですが、折しも米国ではスリーマイル島原子力発電所の事故が発生し、当時全国の研究者の宿望を担って進められていた二号炉計画が具体化しようとしていた矢先でありました。その後この計画は大変困難な時期に突入致しましたが、先生は昭和五十五年の四月から御定年迄の三年間、原子炉実験所長として計画実現に向け全身全霊を傾けられ、既定路線の推進のため陣頭指揮をとられました。地元大阪府原子炉問題審議会での対応等、先生の御専門でない多くの問題の解決に日夜先頭に立たれ、心血を注いでいらっしゃる先生の御姿が今でもはっきりと浮んで参ります。思えば、この時すでに先生の御病気はその前徴を現わしていた訳ですが、私達所員は、いつも穏やかなお顔で、物静かに事に当っていらっしゃる先生に甘えて十分なお手伝いをする事ができず、この計画は諸般の状況の変化もあり、その後撤回のやむなきに到

りました。私ども後輩一同、心よりおわび申し上げます。

さて、学問の世界の転回は目覚ましく、又とくに私達の関係する学問分野では、単に学界のみならず広く一般社会の動向とも大きな接点を持って動いております。このため原子炉実験所の一号炉も、その社会的・学問的使

命を改めて見直し、新しい対応を行うよう求められています。私達は、先生が残された多くの御教えを糧としてこの難局の打開に当り、原子炉実験所の学問の泉源を絶やさず、先生が愛されていた学問の花が咲き続けるよう努力することをお誓いし、先生とのお別れの言葉と致します。

平成四年九月二十日

京都大学原子炉実験所長

西原 英晃

林先生、

つい先日元気にお話かけ下さった先生が、かくも早く神となられますとは我々にとり、全く夢想だにし得なかったこととございました。ただただ驚きと心痛で胸のつまる思いでございます。御退官後も時々お逢いし、貴重な御教示を頂いておりました先生を、原子炉実験所が変革の時期を迎えております今日、かくも早く失いました事は、我々には堪え難い損失であり、私も心の支えを一挙に失った思いで一杯でございます。

思えば先生は二十年近くにわたる京都府立大学でのお勤めの後、昭和三十九年京都大学原子炉実験所に計測装置部門長として赴任され、設立間もない所の部門の運営に、又特に核物理グループの育成に日夜一方ならぬ御努力を重ねられました。爾来昭和五十八年の御退官迄二十年の長きにわたり我々後進を指導されつつ、幾多の研究業績を挙げられると共に、共同利用研究所としての実験所の運営にも多大な貢献をされました。原子炉実験所においては、京都府立大学で成功された日本最初のガンマ線角度相関測定を更に発展させられマルチカウンタ・ゴニオメータを始めとする多くの独創的な装置を次々と開発され、そ

れらを用いての研究を精力的に進められたのであります。即ちマルチカウンタ・ゴニオメータによる短寿命核種の核分光学的研究を始め、 $\beta$ - $\gamma$ 角相関に関する研究、摂動角相関法による核外場の研究、放射化分析の自動化とそれによる公害の研究と幅広く着実な成果をあげていかれました。先生は、かつて核グループの集りて「ノーベル賞をとった研究の多くは独創的な装置を用いてなされている」と云われ、独創性と計測装置の重要性を説かれたのが私の脳裏に焼きついております。先生は、これこそ実験研究者のまず第一に念頭におくべきこととして研究を進められ、我々を指導されたのでありましたが、先生のこの精神は我々の中に生き、今後も原子炉実験所の中に立派な成果を生ましていくものと確信致しております。

今日、原子炉実験所のあり方については、とかくの批判も耳にする所ではありますが、先生は常に原子炉ではそれなりの成果をあげてきていると我々を励まして下さいました。又、原子炉の将来についても常に親身になってお気遣い頂いておりました。先生の残された貴重な成果を基に、現在原子炉実験所では

更に新しい芽も出ようとしております。古い土台からも新しい芽からも、先生の御教訓のもとに益々立派な成果が生まれますよう、我々残された者が更なる一層の努力を続ける事こそ先生の御恩に報いる唯一の道と確信致しております。

先生、どうか安らかにお眠り下さい。

ここに先生に導かれた者を代表して謹んで哀悼の意を表する次第であります。

平成四年九月二十日

京都大学原子炉実験所  
計測装置研究部門長

岡野 事行

## 7. 放射性同位元素の所内持込手続きについて

1. 放射性同位元素の所内持込手続きの1部が変更になりましたのでご通知申し上げます。
2. 共同利用者の場合、放射性同位元素を京都大学原子炉実験所内に持込み、実験しようとする場合、従来はホットラボトリーの保健物理室に放射性同位元素取扱記録(RI記録)を提出するだけでよかったのですが。
3. 今後は、持込む週の2週間前の水曜日までにRI記録を保健物理室に提出し、所長の許可を得なければなりません。
4. 放射線管理上特に重要なものである場合、

所長は保健物理委員会の意見を聴かなければなりませんので、所長の許可は相当遅れることもあります。そのため、RI記録の提出は出来るだけ早くお願い致します。

5. 所長の許可が下りてから、放射性同位元素持込予定届をご提出ください。放射性同位元素購入する場合で、アイソトープ協会より直接原子炉実験所に放射性同位元素を送られる場合には、所長の許可が下りてから購入手続きを行ってください。
6. 本件についての詳細は保健物理室または放射性管理部にお問い合わせください。

## 8. 平成5年度原子炉実験所一般(施設)公開について

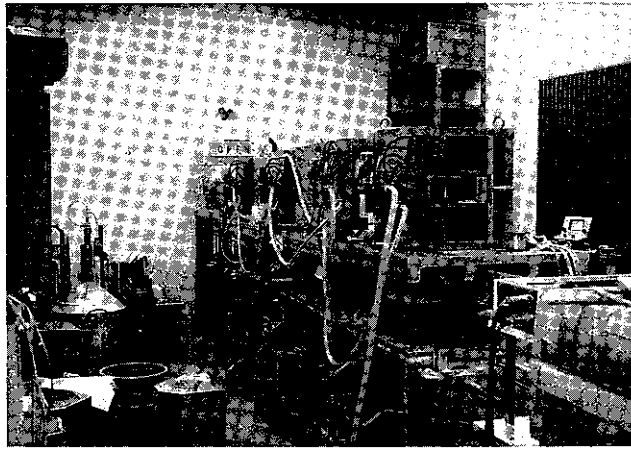
このたび、京都大学原子炉実験所の一般公開が下記のとおり実施されます。

### 記

- 日 時 平成5年4月10日(土) 午後1時～4時
- 場 所 大阪府泉南郡熊取町野田  
京都大学原子炉実験所
- 行 事
- ・施設公開  
臨界集合体棟、原子炉棟(炉室、ホットラボ)、ライナック棟  
廃棄物処理棟
  - ・ビデオ上映、展示板掲示  
原子炉実験所における研究活動の紹介
- 申込方法
- ・団体(10人以上) : 団体名、責任者名、見学者名及び連絡先を  
明記の上、申込みして下さい。(郵送可)
  - ・個人の場合 : 当日、受付にて申込みしていただきます。  
受付は、午後3時30分まで  
小学生以下の場合は、付添者同伴をお願いします。
- 申込・問合せ先 〒590-04 大阪府泉南郡熊取町野田  
京都大学原子炉実験所 総務課庶務掛  
☎(0724) 52-0901 内線 2112

## 9. 実験装置・設備ニュース

### — KUR垂直磁場中性子スピネコー装置 —



(KUR-Neutron Spin Echo Spectrometer with Transverse Magnetic Field)

KURで数年にわたり開発してまいりました上記装置が、このほど無事完成しましたので、ご報告致します。現在のところE-3中性子導管に設置されておりますが、近いうちに冷中性子源にとりつけられる高曲率中性子導管CN-3に移設予定です。

(1) 研究目的。E-3中性子導管に設置中は、主として、中性子のスピ干涉計として、片方のプリセッション磁場中に試料を挿入した物質の中性子屈折率の測定等中性子物理学の基礎的実験を行う。

CN-3中性子導管に移設後は、物質による中性子の準弾性散乱、磁性体のスピネコー実験を主たる目的とする。

(2) 設置場所。現在はE-3中性子導管に設置、高曲率中性子導管CN-3が完成しただい移設予定である。

(3) 装置の概要。多層膜中性子モノクロメー

ターポーライザーにより、5~6Aの偏極中性子利用。中性子散乱面に垂直電磁石磁場(長さ83cm、磁場0~0.15テスラ)使用。スーパーミラー中性子偏極アナライザー利用。中性子波長、散乱ベクトル可変。中性子プリセッションの最大回転数は約5000回。

(4) 装置の性能。エネルギー分解能 $2 E_0 / N$ は $0.1 \mu eV$ 、散乱ベクトルの範囲は $0.01 \sim 2.2 \text{ \AA}^{-1}$ である。

(5) 装置の改良。1次元位置検出器、広角アナライザー、4軸型試料ゴニオメーターを拡張予定。

(6) その他。現在E-3中性子導管に設置、単結晶Siの屈折率の測定により性能テストを行っている。本格的な共同利用は、平成5年度前期に予定されるCN-3中性子導管へ移設後になるが、所員との共同研究は継続中である。

問い合わせは原子炉設備部門、秋吉 恒和、田崎 誠司、海老沢 徹 まで。



## 10. 共同利用者の声

### 「KUR」

九州大学 理学部 阿知波紀郎

昭和44年より、18年間所員として在職しその後も共同利用でたびたびお世話になっている旧所員から見て、20数年の原子炉実験所をめぐる歴史の転換は思ったより急であった。20数年前新入所員の私にとってKURの未来はバラ色に見えた。所員は若く、皆張り切っており、実験装置も新しく、ビーム実験には軽水減速5MWの最低限出力の研究用原子炉とはいえ、ここから、新しい科学が生まれると信じていた。原子炉利用の学問分野は広く、所員ひとりひとりの研究分野がつながらない程であったが、それだけ、学際的の分野が発展する可能性は高く、事実多くの若い研究の芽が育っていたことは、アニュアルレポートをみれば良く分かる。

しかしながら、管理と研究のアンバランスは、これらの研究の芽を暖かく育てやすい環境とは言いがたかった。歴代の出版委員長は、主として助教授で、所員と共同研究者の汗の結晶であるアニュアルレポートが所の全面に掲げられることはなかった。管理と研究は、“くるまの両輪”といわれたが、部門は管理で編成され、部門長は管理長で研究統率の責任は問われなかった。原子炉の安全性は“錦の御旗”、失敗は許されないものである。しかし、くるまの両輪の片方が小さすぎるとKURはまっすぐ前進できず、同じところをぐるぐるまわることになった。はじめから、理想とは、かけ離れた体制ではあったが、それでも、KURは共同利用実験所として、所員の努力に支えられて大きな事故もなく現在まで機能してきた。

この間、中性子をめぐる学問分野も大きく変わった。光源の強度は、レーザー、放射光(SOR)では数千倍、数万倍と発展したが、中性子源は高中性子束KUR2号炉計画でやっと10倍である。10年にわたり所員を結集したにもかかわらず、“まぼろしのKUR2号炉”に終わったことは、たいへん残念であるが、その後出発した日本原子力研究所3号炉やKEKのパルス中性子源の完成度をKUR2号炉が達成できたかたいへん疑問である。KUR2号炉挫折のあと、冷中性子源を中心とした計画が手づくりで曲がりなりにも成功したが、少数所員が維持管理にふうふう言っている。冷中性子源は、構造が単純であればあるほど、管理はたやすい。安全装置のまた安全装置と屋上屋を重ねる程、装置も不安定化する。しかし、これがわかっていながら、安全審査を通す方も、審査する方も設備の理想から遠ざかる。どれだけ理想に近い設計思想が貫けるかは、基本部品の安全性をどこまで信頼できるかによりきまる。結局材料や溶接をはじめとする国産技術レベルが最後に全体を支配するということである。まぼろしのKUR2号炉にも同じ問題があったと思う。純国産KURを最後までほこりに思っていた。

ドイツのミュンヘン炉、デンマークのリセー炉で過ごしてみて、かれらがオリジナルな伝統を打ち立てた歴史を持っていることが強く印象に残った。中性子をめぐる研究情勢の変化に加え、原研3号炉、高エネルギー研パルス中性子源とならんで、特徴あるKURの再建をめざし、新しい5本の柱の研究分野がKURの存続をかけて掲げられた。しかし、実

験所の未来は、20数年の所員の努力のなかから出てくると信じる。せっきく世界に先駆けて開発された、スーパーミラー中性子導管の多目的利用等が充分でなかったこと等残念なことも多いが、所員それぞれが積み上げた成果を評価すべきだ。以上、手前みその勝手な議論で、申し分けなく思うが、KURの

“るつぼ”で20数年発酵した、数々の結晶が日の目を見ることを切に望む。

最後にKURで育った多層膜垂直磁場中性子スピネコー装置を所員と一緒に開発させていただいたのは、岡本元所長はじめ、渋谷先生、第2部門、実験所管理部門の諸先生方のおかげと感謝する次第です。

## 1.1. 外国人研究員の受入れについて

氏名 (所属)	国籍	研究題目	受入期間	備考
Henrique Saitovitch (ブラジル国立物理学研究センター主任研究員)	ブラジル国	摂動角相関法による固体物性の研究	平成4.9.9 ～ 4.10.3	

## 1 2 . 外国人研究者講演会報告

原子炉利用研究者グループの後援により、  
下記のように講演会が行われました。

① 平成4年8月13日開催

“Present status of the consequence of the Chernobyl accident”

Efgeny F. Konoplya

(Institute of Radiation Biology  
Byelorussian)

② 平成4年9月17日開催

“Hyperfine Interaction Studies at  
Centro Brasileiro de Pesquisas  
Fisicas”

Henrique Saitovitch

(Centro Brasileiro de Pesquisas  
Fisicas Brasil)

③ 平成4年10月26日開催

“Fast Breeder Reactor Technique  
and U-233 Critical Experiment  
in India”

M. Srinivasan

(Bhabha Atomic Research Centre  
India)

④ 平成4年11月9日開催

“Nuclear Situation in India”

Dr. R. Chidambaram

(Bhabha Atomic Research Centre  
India)

## 1 3 . 教 官 募 集 に つ い て

下記の要項により、教官の公募を行います。  
原子炉実験所は、原子炉による実験及びこれに関連する研究を行うことを目的とした全国大学等の共同利用研究所です。当所では、先般、従来の量的拡大を目指した2号炉計画を撤回し、今後は質的向上を重視して研究炉KURのより高度な利用を中心として研究を行おうとしています。そのため、研究組織の再編成を行い、より活力のある研究所として生まれ変わるよう努力しています。

今回の公募は、その一環として、それぞれの分野において共同利用を含めた研究の中心

となる人材を募るものです。新しい研究設備の整備・充実については、当所としても鋭意努力を重ねて参りますが、予測される多くの困難を率先して打開していく意欲ある研究者を募ります。なお、施設管理については技術部がありますが、特に区分Aの教官については、その指導と責任の一端をも担っていただくこととなります。

公募締切は平成5年1月29日(金)午後5時(必着)です。

詳しくは原子炉実験所総務課庶務掛(☎ 0724-52-0901 内線2111)までご照会下さい。

記

区分	職名及び人数	職務の内容	専門とする学術上の資格に加えて期待される資格等
A	教授 1名	放射化学または放射線化学に関する研究とその指導並びに研究用原子炉に附設のホットラボラトリー設備・照射設備等の管理業務の統括。	放射線取扱主任者免状(第一種)を有し、非密封R Iまたは強放射線源の取扱いについて十分な経験を有すること。
B	教授 1名	原子炉で製造される短寿命R Iの分離、R Iビームの生成及びそれを用いた核分光學と物性分野等における学際的利用に関する研究とその指導。	(特になし)

#### 14. 審議員の異動

当実験所、内海博司教授が平成4年9月1日付けで、審議員に発令されました。

# 15. 運営委員会委員名簿

平成4年10月1日現在

東北大学	助教授	(理学部附属泡箱写真解析施設)	山口	晃
秋田大学	教授	(医)	滝澤	行雄
東京工業大学	"	(原子炉工学研究所)	関本	博
大阪大学	"	(工)	山本	忠史
"	助教授	(基礎工)	那須	三郎
広島大学	教授	(原爆放医研)	丹羽	太貫
山口大学	"	(理)	岩田	允夫
京都薬科大学	"	(薬)	桜井	弘
大阪薬科大学	助教授	(薬)	木村	捷二郎
岡山理科大学	"	(理)	関	達也
福山大学	"	(工)	占部	逸正
京都太学	教授	(放射線生物研究センター)	佐々木	正夫
"	助教授	(工)	森山	裕丈
"	"	(化学研究所附属原子核科学研究施設)	松木	征史
"	事務局	局長	田村	誠
"	教授	(原子炉)	澁谷	巖
"	"	("	藤田	薫頭
"	"	("	岡野	事行
"	"	("	宇津呂	雄彦
"	"	("	前田	豊
"	"	("	小野	公二
"	助教授	("	神田	啓治
"	"	("	西牧	研壯
"	"	("	菊池	忠壽
"	"	("	川瀬	洋一
"	"	("	赤星	光彦
"	"	("	松山	奉史

## 16. 臨界集合体実験装置共同利用委員会委員名簿

平成4年10月1日現在

北海道大学	工 学 部	教 授	成 田 正 邦
東京工業大学	原子炉工学研究所	“	関 本 博
名古屋大学	工 学 部	“	田 坂 完 二
神戸商船大学	商 船 学 部	助 教 授	北 村 晃
九州大学	工 学 部	教 授	工 藤 和 彦
武蔵工業大学	原 子 力 研 究 所	“	相 沢 乙 彦
近畿大学	“	助 教 授	大 沢 孝 明
京 都 大 学	原 子 炉 実 験 所	教 授	藤 田 薫 顕
“	“	助 教 授	神 田 啓 治
“	“	“	赤 星 光 彦
書 記			小 林 圭 二
“			林 正 俊

## 17. 職 員 の 異 動

### 1. 昇 任

平成4年8月16日付け ホットラボ設備関係研究部門  
 教授 玉井 慧 治  
 (ホットラボ設備関係研究部門助教授から)

平成4年9月1日付け 核生物学研究部門  
 教授 内海 篤 司  
 (京都大学放射線生物研究センター助教授から)

### 2. 配置換

平成4年8月1日付け 京都大学工学部  
 教授 山岡 仁 史  
 (放射線化学研究部門教授から)

平成4年8月16日付け 原子炉医療基礎研究施設  
助手 増永慎一郎  
(京都大学医学部附属病院助手から)

平成4年10月1日付け 経理課経理掛員  
文部事務官 池田正憲  
(文部省大臣官房会計課から)

3. 併任

平成4年8月1日付け 放射線化学研究部門  
教授 山岡仁史  
(本職：京都大学工学部教授)  
(併任期間：平成5年3月31日まで)

4. 退職

平成4年8月18日 ホットラボ設備関係研究部門  
教授 玉井策浩  
(死亡退職)

## 18. 委員会メモ（平成4年8月～平成4年10月）

平成4年

8月24日 第78回臨界集合体実験装置共同利用委員会  
28日 平成4年度第5回原子炉安全委員会

9月4日 臨時協議員会  
8日 平成4年度第3回原子炉医療委員会  
10日 保健物理委員会（回議）  
18日 審議会・協議員会  
25日 平成4年度第6回原子炉安全委員会  
平成4年度第2回保健物理委員会

10月9日 第148回運営委員会  
23日 審議会・協議員会  
27日 平成4年度第4回原子炉医療委員会  
30日 平成4年度第7回原子炉安全委員会

## 19. 原子炉実験所だより委員名簿

平成4年11月16日現在

名古屋大学	工学部	教授	河出清
香川大学	教育学部	〃	中川益夫
九州大学	理学部	〃	阿知波紀郎
京都大学	原子炉実験所	助教授	神田啓治
〃	〃	〃	岩田豊
〃	〃	〃	代谷誠治
〃	〃	〃	西牧研壯
〃	〃	総務課長	磯田潔
〃	〃	経理課長	木村好秀
〃	〃	共同利用掛長	麻田茂



## 編 集 後 記

今年になってから初代所長の木村毅一名誉教授、玉井忠治教授、第4代所長の林竹男名誉教授が相次いで逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表すとともに、故人のご冥福をお祈り致します。これに伴ってホットラボ設備関連研究部門では、平成になってから3名の現職教授あるいは助教授を失ったことになり、当該分野の研究遂行上、大きな痛手を受けることになりました。一方、創立30周年を目前に控えた原子炉実験所を巡る動きも、いよいよ大詰めを迎えています。

1990年7月31日の学術審議会総会において同審議会の原子力部会より「大学における研究用原子炉の在り方について」と題する報告が行われました。この報告を受けて京都大学に「原子炉実験所の在り方検討委員会」が組織され、検討の結果、1991年9月24日付「京都大学原子炉実験所の在り方について」としてまとめられました。これに基づいて1992年

8月20日付で京都大学総長より文部省学術国際局長宛に「京都大学研究用原子炉（KUR）の整備等について」と題する文書が提出されました。現在、この文書に基づいて、学術審議会の原子力部会における審議が行われています。

原子炉実験所では、従来の研究成果に基づいて、KURを利用した5つの特徴的研究（① 極冷中性子・超冷中性子の生成と利用に関する研究、② 制御照射場による諸材料・試料等の特性研究、③ 短寿命RIの分離と高度利用、④ 超ウラン元素の核的特性に関する実験的研究、⑤ 粒子線高度医療を目的とする生物・医学的基礎研究）を主軸とする研究を推進する方向で、共同利用研究採択法の見直しを含め、新たな研究体制の確立に努力しています。関連研究者の暖かいご支援・ご協力を賜りますよう切にお願い申し上げます。次第です。